Osaka University Knowledge Archive

Title	目で見るWHO　第82号　表紙・目次等
Author(s)	小笠原, 理恵
Citation	目で見るWHO. 2022, 82, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89912
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

ISSN 2434-7205

目で見る WHO

2022 秋号

No.82

Visual Journal of Friends of WHO Japan

公益社団法人
日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	小笠原　理恵
P2	巻頭特集	
	難民	中村　安秀
P6	セミナー・イベント報告	
	1. 第4回WHO協力センター連携会議	岩本　あづさ
	2. 外国人住民母子保健・子育て支援フォーラム	福田　久美子
P14	NGO・団体紹介	
	特定非営利活動法人TICO（Tokushima International Cooperation）	吉田　修
P16	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻	神馬　征峰
	2. 大手前大学国際看護学部	エレーラ　ルルデス
P20	留学生日記	
	多様なバックグラウンドの学生と多角的な視点から学ぶ公衆衛生	鈴木　順子
P22	職員日記	
	西太平洋地域の薬剤耐性と感染症アウトブレイク対策	西島　健
P24	WHOニュース　5月／6月／7月	林　正幸
		渡部　雄一
P30	関西グローバルヘルス（KGH）の集い	
	オンラインセミナー第5弾　第1回：プラネタリーヘルスという新たな視座	藤井　まい
	第2回：環境が健康に及ぼした大きなインパクト	柳澤　沙也子
P32	International Days（健康関連の国際デー）	
P33	WHOの地域事務局と加盟国	
P34	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P36	インターンシップ支援助成のご案内	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ	加藤　美寿季
P38	入会案内	

ごあいさつ

日本WHO協会　理事
関西グローバルヘルス(KGH)の集い　運営委員代表
大阪大学大学院医学系研究科　特任講師(常勤)
小笠原　理恵

関西グローバルヘルス（KGH）の集いは2019年1月に始まりました。新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の影響を受けて、現在はオンラインセミナーが主な活動になっていますが、もともとは10～30人規模で開催していた対面型の勉強会でした。

その根っこは、大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学講座国際協力学の中村安秀ゼミで不定期に開催していた自主勉強会にあります（現在、グローバル人間学講座はグローバル共生学講座に変わっています）。当時の国際協力学講座はインドネシア、ラオス、モンゴルなどからの留学生が三分の一を占めており、正規のゼミの中ではプレゼンテーションも質疑応答も英語で行うのがルールでした。限られた時間の中、英語でディスカッションを行うことは、たいへん貴重な訓練の機会であった反面、表面的な質疑応答に終わってしまうなど消化不良に陥ることもしばしばでした。そのモヤモヤを解消すべく、有志によって始まったのが日本語勉強会でした（「日本語」を勉強する会ではありません。あしからず）。修士・博士論文の完成を最終目標に、自由闊達に、それこそ知らない人が見たら失礼千万と思うのではないかというくらい率直に、お互いの意見をぶつけ合える場を持ち、それぞれの専門性を高め合うことが目的でした。

それからおよそ5年後の2018年12月、すでに大阪大学を退官され当協会の理事長に就任していた中村安秀先生の呼びかけに応じて、KGHの集いの立ち上げメンバー約10名が協会事務局に集いました。グローバルヘルスに関する諸テーマを取り上げ、立場や職業、年齢などを越えて自由闊達にディスカッションし、お互いを切磋琢磨しあえるような場を日本WHO協会で提供したいという思いを共有し、行動に移すことが決まりました。その後の打ち上げの席で会の名称を決めたのですが、一人一人が割りばしの空袋の裏に良いと思う名称を書き、その場の多数決によって、現在の「関西グローバルヘルスの集い（略称：KGHの集い）」という名称が出来上がりました。

そしてあっという間に立ち上げから4年が経ちました。初期メンバーとして運営に携わっていた仲間の中には、医学生から医師になっていた人たちや新たに社会人になっていった人たちなど、それぞれの道に向かって歩き始めた人たちがいます。その一方で、新メンバーが随時加わってくれています。運営スタッフは皆有志によるボランティアです。きつい縛りはありません。やれる時にやれる事を、責任を持ってやる。それだけです。グローバルヘルスに関心のある皆さん、私たちと一緒に活動してみませんか？

2022年10月